日本ライフライン株式会社

2006年3月期決算説明会資料解説

本解説は、決算説明会資料の補足説明を目的としており、決算説明会の議事や発言をそのまま記録したものではありません。
また、本解説の記載内容のうち、歴史的事実ではない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。
実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響をうけますので、これらの予測へ過度に依存されないようお願いします。

日本ライフライン株式会社

2006年3月期決算説明会

2006年6月1日

... for patient comfort.

＜説明会開催概要＞
■開催日時;２００６年6月1日　10:00～10:35
■会　　場;日本証券アナリスト協会会議室
■参 加 者;証券アナリスト、機関投資家等約35名
■発表内容;
⑴「2006年3月期決算および2007年3月期業績予想」
･･･取締役管理本部長　政次　浩二
⑵「課題と展望」･･･代表取締役社長　鈴木　啓介

2006年3月期決算報告
2007年3月期業績予想

取締役管理本部長
政次　浩二

2006年6月1日

JLL 日本ライフライン株式会社

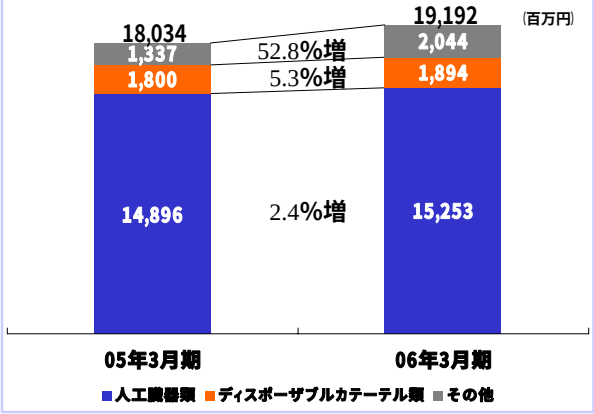
2006年3月期業績ハイライト

（単位；百万円）	2005年3月期	2006年3月期		
	金　額	金　額	増　減　額	増　減　率
売　上　高	18,034	19,192	1,158	6.4%
営 業 利 益	850	1,070	219	25.8%
経 常 利 益	1,052	1,481	429	40.8%
当期純利益	457	777	320	70.0%

2006年3月期実績－売上高

売上高　19,192百万円

(05/3期比　6.4%増)



＜主　要　増　減＞ (百万円)

人工臓器類	
ペースメーカ関連	＋226(2.5%増)
ICD関連	△94(5.1%減)
人工血管	＋294(13.0%増)
人工弁	△125(9.4%減)

ディスポーザブルカテーテル類	
バルーンカテーテル	＋159(13.9%増)
ガイドワイヤー	△43(8.0%減)

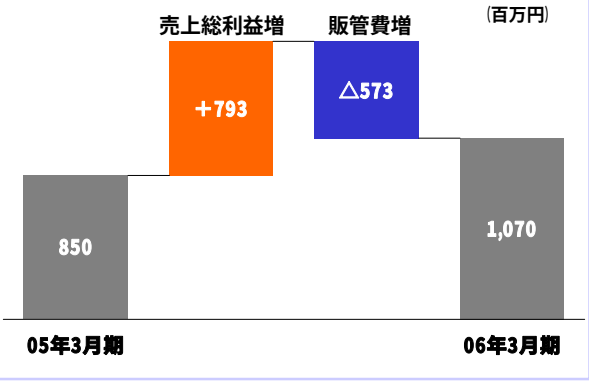
その他	
EPカテーテル	＋229(43.9%増)
アブレーションカテーテル	＋453(60.8%増)

売上高の増加要因としては、主力商品である心臓ペースメーカが堅調に推移したことに加え、自社製造製品であるEP（電気生理用）カテーテルおよびアブレーションカテーテルが大幅に伸長したことがあげられます。
一方、ICD（植込み型除細動器）につきましては、マーケットへ新規参入があったこと等の影響により、前期比マイナスとなりました。

2006年3月期実績－営業利益

営業利益　1,070百万円

(05/3期比　25.8%増)



売上総利益増加要因	
売上増(百万円)	＋1,158
原価率改善	53.0%→51.7%

販管費増加要因(百万円)	
研究開発費	＋106(70.4%増)
旅費交通費	＋46(8.4%増)
支払手数料	＋44(33.1%増)
不動産賃借料	＋22(4.9%増)
広告宣伝費	＋12(5.8%増)

営業利益の増加につきましては、売上高が増加したことに加え、売上商品構成の変化や自社製品の売上比率の上昇により原価率が改善したことによります。また経費増加要因のうち、旅費交通費は高速道路の割引制度変更に伴うものであり、また、支払手数料につきましては、ISOおよびCEマーキング取得に関するコンサルティング費用が主な内容となっております。

2006年3月期実績－経常利益･純利益

経常利益　1,481百万円

(05/3期比　40.8%増)

■営業外収益 454百万円計上
(05/3期　228百万円計上)

【主な営業外収益】
･為替差益　　200百万円
･受取保険金
　及び配当金　183百万円

当期純利益　777百万円

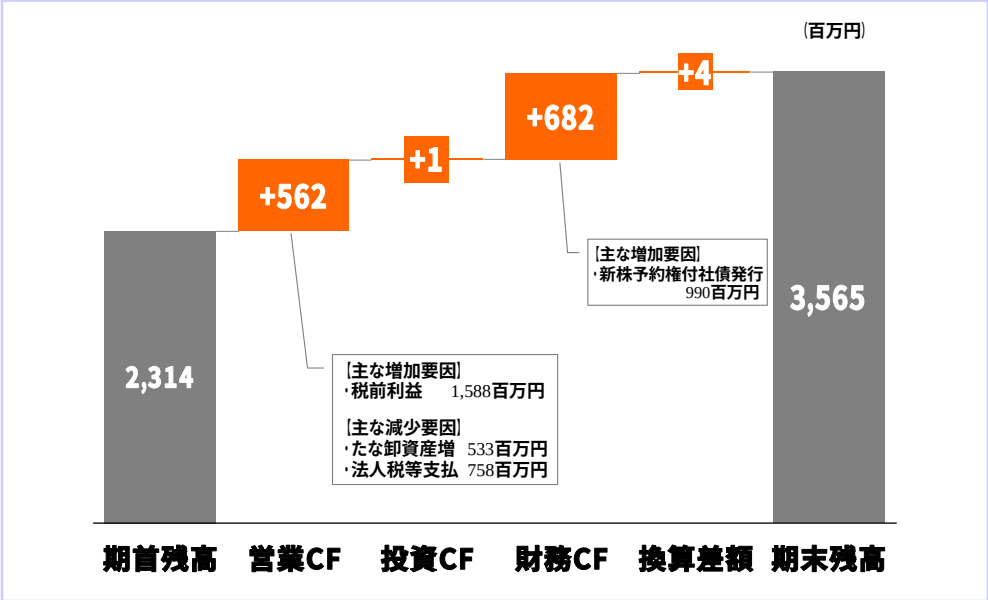
(05/3期比　70.0%増)

■特別利益 120百万円計上
(05/3期　14百万円計上)

【主な特別利益】
･役員退職慰労金
　引当金戻入益　　28百万円
･確定拠出年金
　移行益　　33百万円

営業外収益のうち為替差益は通貨スワップの評価益であり、特別利益の役員退職慰労金引当金戻入益は社内規程の変更に伴うものであります。

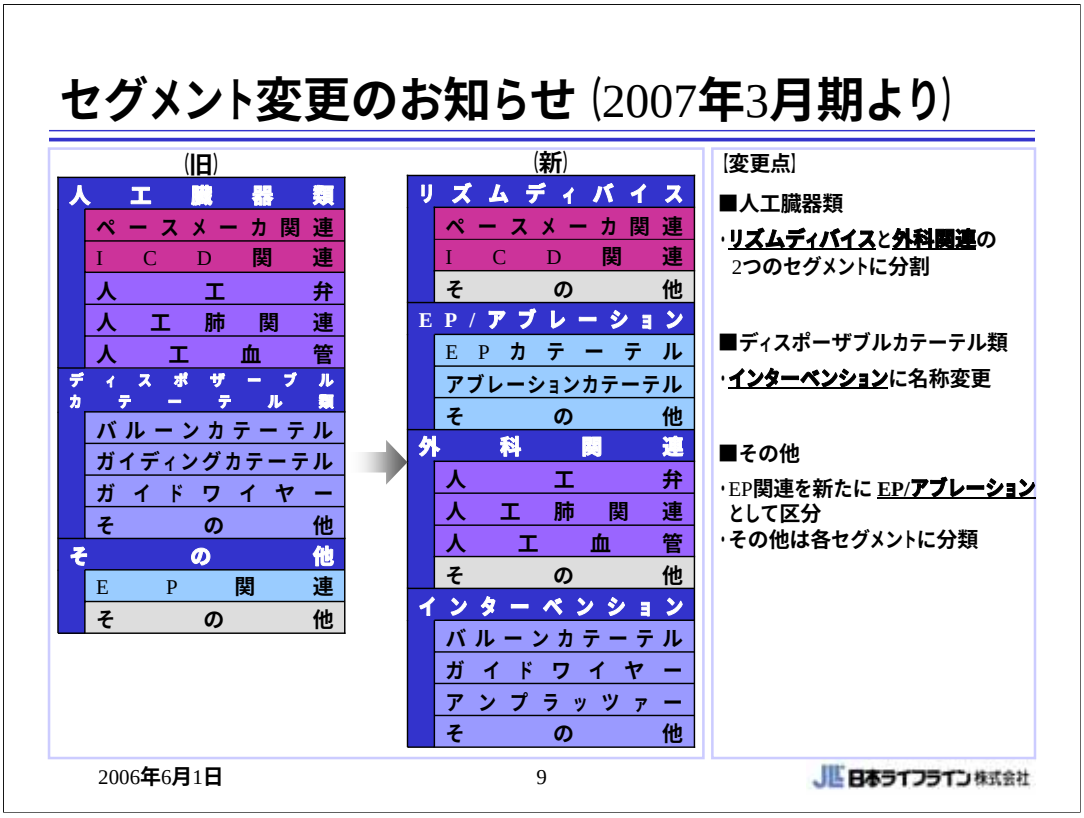
2006年3月期実績ーキャッシュ･フロー



営業キャッシュフローの減少要因のうち、たな卸資産の増加につきましては自社製造製品の売上が好調であることに伴い、製品在庫や原材料および仕掛品が増加したことによります。

2007年3月期業績予想ハイライト

（単位；百万円）	2006年3月期	2007年3月期		
	金　　額	金　　額	増　減　額	増　減　率
売　上　高	19,192	18,976	△216	△1.1%
営業利益	1,070	817	△252	△23.6%
経常利益	1,481	1,159	△322	△21.7%
当期純利益	777	545	△231	△29.8%

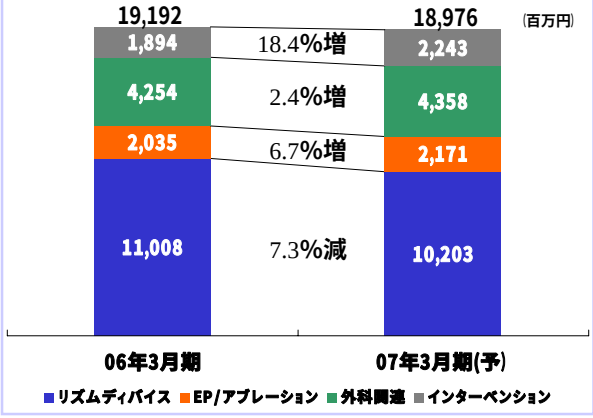


従来の3分類では、「人工臓器類」が売上の約8割と大部分を占めていること、また、自社製品であるEP関連が好調であり、「その他」の比率が大きくなっていることより、当社の事業内容をより反映したセグメントとするために見直しを行い、新たに4分類といたします。

2007年3月期予想－売上高

売上高　18,976百万円

(06/3期比　1.1%減)

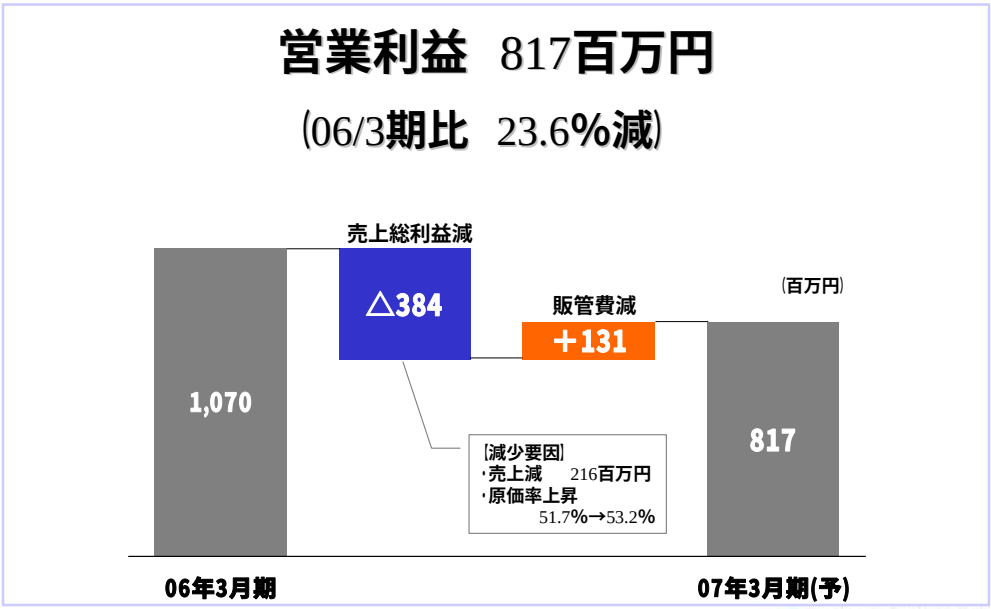


<主　要　増　減> (百万円)

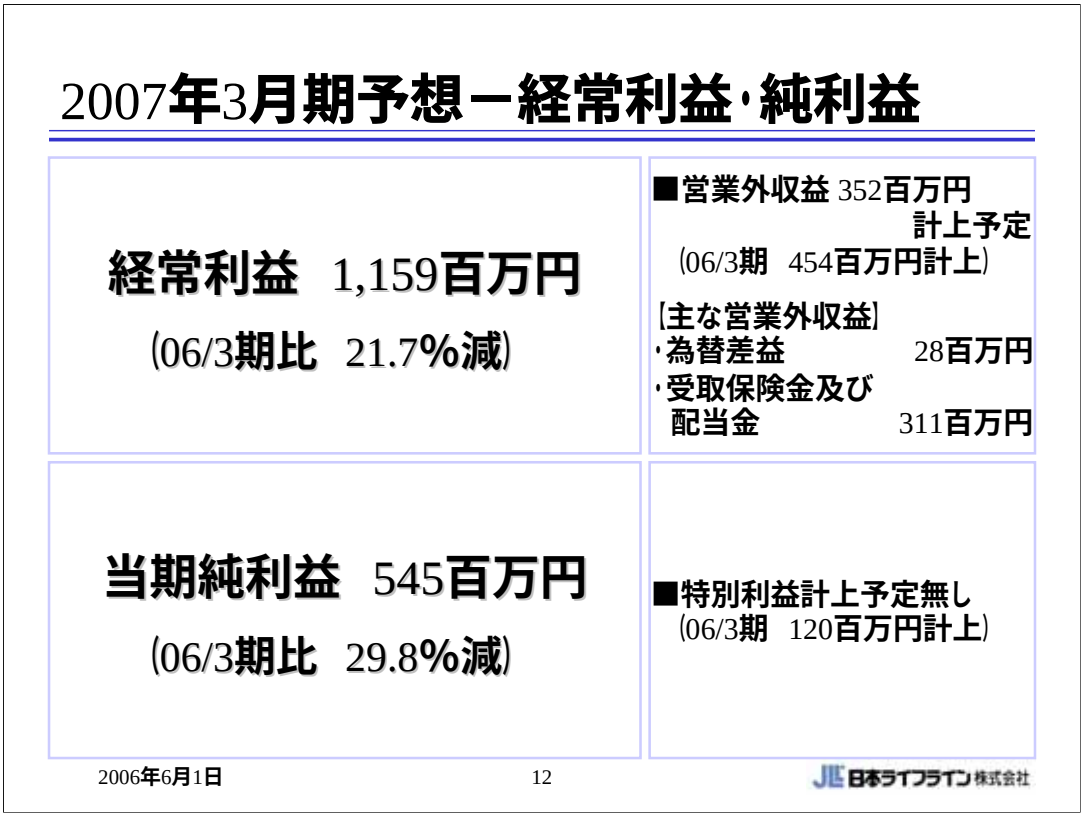
リズムディバイス	
ペースメーカ関連	△741(8.1%減)
ICD関連	△28(1.6%減)
EP/アブレーション	
EPカテーテル	+186(24.8%増)
アブレーションカテーテル	△22(1.8%減)
外科関連	
人工弁	＋75(6.2%増)
人工血管	＋21(0.8%増)
インターベンション	
バルーンカテーテル	△9(0.8%減)
ガイドワイヤー	＋1(0.2%増)
アンプラッツァー	＋281 (1133.2%増)

2007年3月期は、全般的に売上数量は増加するものの、今年4月の保険償還価格の大幅な引き下げの影響を受けるため、2006年3月期に比べ、1.1%の減収を見込んでおります。
しかしながら、自社製品であるEP（電気生理用）カテーテルにつきましては、保険償還価格の引き下げがあるものの、引き続き順調な売上を見込んでおります。
また、昨年3月に承認された心房中隔欠損閉鎖器具（商品名「アンプラッツァー・セプタルオクルーダー」）につきましては、今年4月に保険適用されたことから、売上の増加が見込まれます。

2007年3月期予想－営業利益



営業利益につきましては、保険償還価格の影響により売上高が減少することおよび原価率の上昇により、前期比マイナスを見込んでおります。



2007年3月期は営業利益の減少に加え、営業外収益においても前期比101百万円減少し、さらに特別利益の計上を予定していないため、当期純利益は前期比マイナスを見込んでおります。

補足データ

(単位;百万円)	2003年3月期	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期(予)
設備投資額	94	190	173	271	215
減価償却費	313	278	223	211	207
研究開発費	102	110	151	257	225
為替(US$)	123.32円	115.35円	108.44円	113.17円	120円
期末従業員数	316名	328名	346名	364名	384名

当社の主力商品である心臓ペースメーカの仕入が今年1月より円建てとなったことから、商品仕入に関する為替変動の影響は軽微なものと見込まれます。

(資料) 損益推移－2005/3～2007/3 (予)

(単位;百万円)	2005年3月期実績		2006年3月期実績			2007年3月中間期 (予)		2007年3月期 (予)		
	金　額	構成比	金　額	構成比	前期比	金　額	構成比	金　額	構成比	前期比
売上高	**18,034**	**100.0%**	**19,192**	**100.0%**	**6.4%**	**9,187**	**100.0%**	**18,976**	**100.0%**	**△1.1%**
売上原価	9,560	53.0%	9,925	51.7%	3.8%	4,973	54.1%	10,093	53.2%	1.7%
売上総利益	**8,473**	**47.0%**	**9,267**	**48.3%**	**9.4%**	**4,214**	**45.9%**	**8,882**	**46.8%**	**△4.1%**
販管費	7,622	42.3%	8,196	42.7%	7.5%	4,015	43.7%	8,065	42.5%	△1.6%
営業利益	**850**	**4.7%**	**1,070**	**5.6%**	**25.8%**	**198**	**2.2%**	**817**	**4.3%**	**△23.6%**
営業外収益	228	1.3%	454	2.4%	98.9%	280	3.1%	352	1.9%	△22.4%
営業外費用	27	0.2%	43	0.2%	60.4%	5	0.1%	11	0.1%	△73.4%
経常利益	**1,052**	**5.8%**	**1,481**	**7.7%**	**40.8%**	**473**	**5.2%**	**1,159**	**6.1%**	**△21.7%**
特別利益	14	0.1%	120	0.6%	749.3%	－	－	－	－	△100.0%
特別損失	13	0.1%	13	0.1%	2.0%	0	0.0%	4	0.0%	△67.8%
税前当期利益	**1,052**	**5.8%**	**1,588**	**8.3%**	**50.9%**	**473**	**5.2%**	**1,154**	**6.1%**	**△27.3%**
法人税等	595	3.3%	810	4.2%	36.2%	260	2.8%	608	3.2%	△24.9%
当期純利益	**457**	**2.5%**	**777**	**4.1%**	**70.0%**	**213**	**2.3%**	**545**	**2.9%**	**△29.8%**

(資料) <旧>セグメント別売上

(単位:百万円)	2005年3月期		2006年3月期		2007年3月期 (予)		備考
	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比	
ﾍﾟｰｽﾒｰｶ関連	9,009	△2.3%	9,235	2.5%	8,459	△8.4%	
ＩＣＤ関連	1,867	31.6%	1,772	△5.1%	1,744	△1.6%	
人工弁	1,334	△14.3%	1,208	△9.4%	1,283	6.2%	
人工血管	2,261	1.4%	2,556	13.0%	2,577	0.8%	
人工肺関連	424	△7.7%	480	13.3%	495	3.1%	
人工臓器類	**14,896**	**0.1%**	**15,253**	**2.4%**	**14,560**	**△4.5%**	
ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ	1,148	17.7%	1,307	13.9%	1,297	△0.8%	
ｶﾞｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	53	△66.1%	4	△91.5%	ー	ー	
ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ	546	10.5%	502	△8.0%	503	0.2%	
その他	52	△24.5%	79	53.5%	441	452.2%	アンプラッツァー含む (06/3、07/3)
ﾀﾞｲﾚｸﾀｰﾁｬﾌﾞﾙｶﾃｰﾃﾙ類	**1,800**	**6.1%**	**1,894**	**5.3%**	**2,243**	**18.4%**	
ＥＰ関連	1,315	29.0%	2,032	54.5%	2,171	6.8%	
その他	22	△83.5%	11	△48.1%	1	△89.5%	
その他計	**1,337**	**16.0%**	**2,044**	**52.8%**	**2,172**	**6.3%**	
合計	**18,034**	**1.7%**	**19,192**	**6.4%**	**18,976**	**△1.1%**	

(資料) ＜新＞セグメント別売上

(単位;百万円)	2005年3月期		2006年3月期		2007年3月期 (予)		備考
	金額	前期比	金額	前期比	金額	前期比	
ペースメーカ関連	8,959	△2.3%	9,162	2.3%	8,420	△8.1%	
ＩＣＤ関連	1,867	31.6%	1,772	△5.1%	1,744	△1.6%	
その他	50	△0.3%	73	46.8%	38	△47.9%	
リズムディバイス計	**10,876**	**2.2%**	**11,008**	**1.2%**	**10,203**	**△7.3%**	
ＥＰカテーテル	522	15.5%	751	43.9%	938	24.8%	
ＡＢＬカテーテル	746	46.2%	1,199	60.8%	1,177	△1.8%	
その他	49	△15.4%	83	70.9%	55	△33.8%	
ＥＰ/ＡＢＬ計	**1,317**	**29.1%**	**2,035**	**54.5%**	**2,171**	**6.7%**	
人工弁	1,334	△14.3	1,208	△9.4%	1,283	6.2%	
人工肺関連	424	△7.7%	480	2.5%	495	3.1%	
人工血管	2,261	1.4%	2,556	13.0%	2,577	0.8%	
その他	19	△84.9%	8	△55.7%	1	△86.5%	
外科関連計	**4,039**	**△7.7%**	**4,254**	**5.3%**	**4,358**	**2.4%**	
バルーン	1,148	17.7%	1,307	13.9%	1,297	△0.8%	
ガイドワイヤー	546	10.5%	502	△8.0%	503	0.2%	
アンプラッツァー	ー	ー	24	ー	306	1,133.2%	
その他	105	△53.4%	84	△19.7%	135	59.9%	ガイディング含む (05/3、06/3) マイクロカテ含む (07/3)
インターベンション計	**1,800**	**6.1%**	**1,894**	**5.3%**	**2,243**	**18.4%**	
合計	**18,034**	**1.7%**	**19,192**	**6.4%**	**18,976**	**△1.1%**	

課題と展望

代表取締役社長
鈴木　啓介

2006年6月1日

JLL 日本ライフライン株式会社

事業展開上のポイント

■既存マーケットの販売強化

・価格下落に対して売上数量の増加を図る

■自社製品の拡充

・高利益率の確保

・商品供給リスクの回避

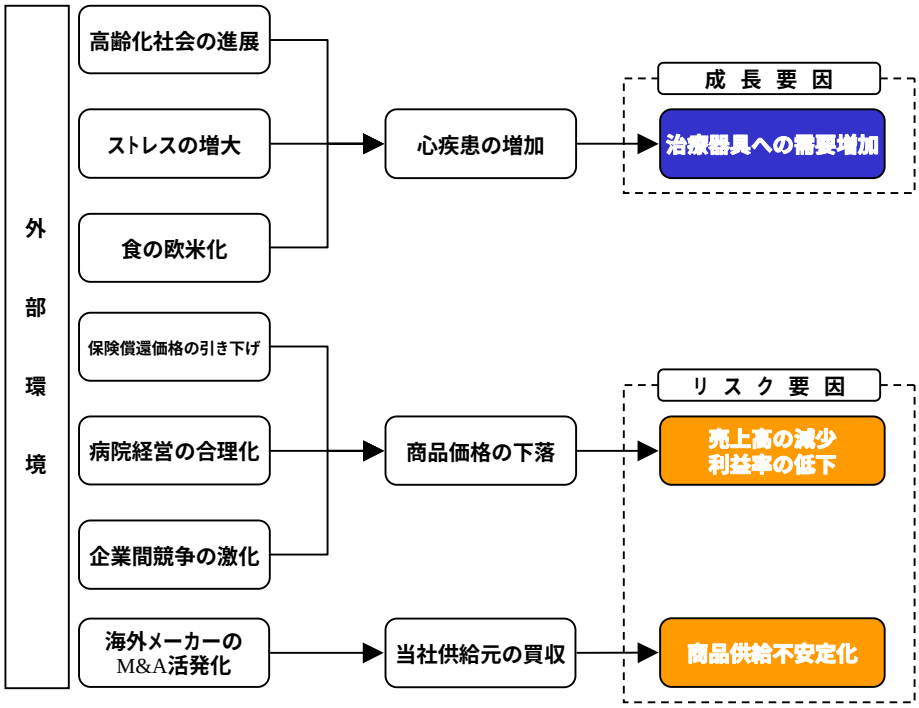
■オンリーワン商品の投入

・価格競争の回避

・新規取引先の開拓

2006年6月1日　18　日本ライフライン株式会社

下記のような当社を取り巻く環境に対して、「既存マーケットの強化」、「自社製品の拡充」、「オンリーワン商品の投入」の3点を事業展開上の課題として取り組んでまいります。



既存マーケットの販売強化（1）

■ICD（植込み型除細動器）

・競争環境の激化

・保険償還価格の引き下げ無し
　→新商品「バイタリティ」の投入によりシェア拡大
　　（下期投入予定）

＜特　長＞

・生理的形状

・厚さ11ミリ、容量30cc
　（プリズム2：厚さ12ミリ、容量32cc）

・不整脈検出機能向上



ICD（植込み型除細動器）につきましては、他社の参入等により競争環境が厳しくなっておりますが、新商品の投入により、シェア回復を図ってまいります。

既存マーケットの販売強化（2）

■バルーンカテーテル

・「オッティモ・ロッソ」発売（2005年12月）
　－主力商品オッティモの後継商品
　－病変部通過性能の向上に加えリラップ性能向上
　－今期よりフルリリース

■マイクロカテーテル

・「アクロバ」（カネカ製）発売予定（第2四半期）
　－ガイドワイヤーをサポートするカテーテル
　－インターベンション商品のラインナップ強化

インターベンション分野におきましては、カネカ社製のバルーンカテーテルの新商品を発売した他、さらにラインナップ強化を図るために新たにマイクロカテーテルの販売を開始する予定です。

既存マーケットの販売強化 (3)

■外科関連商品

・オンリーワン商品を梃子に営業強化

・人工肺・・・新商品効果もあり売上回復基調に



コセリ

オンリーワン
商品群

バルサルバ



カーボシール

人工肺



クアドロックス

外科関連商品につきましては、市場の成長に加え、昨年新商品を投入した効果もあり、引き続き堅調に推移する見込みです。

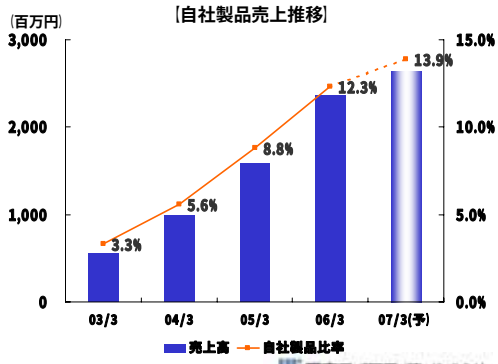
自社製造製品の拡充（1）

・売上は順調に推移（06年3月期　2,367百万円）

・ISO13485の認証取得（2006年4月）
（取得部門：薬事および開発・製造部門）
→従来以上に高い品質と安全性を確保する体制へ

・製造原価低減への取り組み

【自社製造製品】
・ガイドワイヤー
・EP（電気生理用）カテーテル
・アブレーションカテーテル



中長期的には売上高比率30%を目標に自社製造製品の拡充に取り組んでおります。
昨年4月に改正薬事法が施行されたことに加え、自社製造製品の拡充を図るなか、メーカーとしての責務を認識し、これまで以上に高い品質と安全性の確保に向けた体制を確実なものとすべくISO13485を取得いたしました。

自社製造製品の拡充 (2)

■ガイドワイヤー

・CEマーキングの認証取得 (2006年5月)
　→EU域内での流通可能に・・・海外展開への第一歩

・末梢用ガイドワイヤーのOEM供給開始

・「アスリート」のポリマーコーティングタイプ発売予定 (下期)
　→ポリマーコーティングによりすべり性能の向上

・「アスリート・プレミアム」
　→完成度の高い製品を目指し開発中

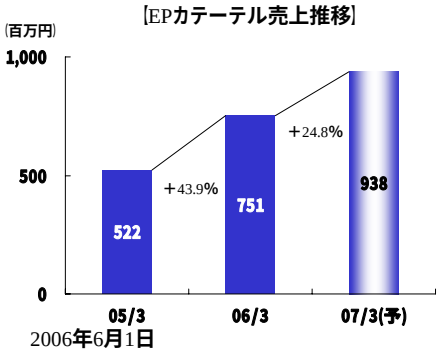
ガイドワイヤーは当社における、最初の自社製造製品となります。
2001年の発売以来、ラインナップの充実もあり売上を伸ばしてまいりましたが、市場における競争環境は厳しくなっておりますので、新商品の投入を図ってまいります。

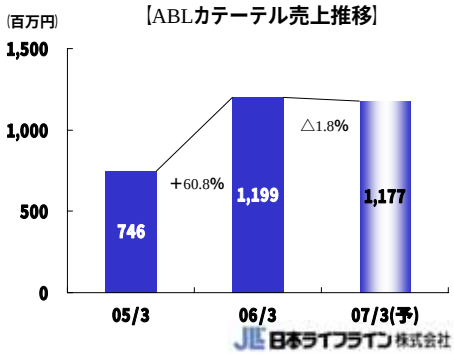
自社製造製品の拡充 (3)

■EPカテーテル/アブレーションカテーテル

・EP/アブレーション部に昇格

・「J・Cath」ブランドにより唯一の国産製品として訴求
→マーケットニーズに迅速かつ的確に対応





2006年6月1日

日本ライフライン株式会社

EP（電気生理用）カテーテルは、2006年3月期より販売が本格化しており、2007年3月期においても、保険償還価格の引き下げはあるものの、引き続き好調に推移することが見込まれます。
また、アブレーションカテーテルにおきましても、引き続き数量ベースでの伸びは見込めるものの、すでにマーケットシェア1位（自社推計）であることより、これまでより成長スピードが落ちること、また、保険償還価格引き下げの影響を受けることから、2007年3月期は前期比微減を見込んでおります。

自社製造製品の拡充 (4)

■EPカテーテル/アブレーションカテーテル

◆EPカテーテル (製品名：EPスター)

・カーブ形状や電極配置のバリエーション充実
　→症例に合わせたきめ細かい対応が可能

・EPカテーテルのOEM供給開始

◆アブレーションカテーテル (製品名：アブレイズ)

・マーケットシェア1位獲得 (06/3期自社推計)

・製品バリエーション充実によりさらなるシェア伸長へ

オンリーワン商品の投入

■心房中隔欠損閉鎖器具

（商品名：アンプラッツァー・セプタルオクルーダー）

・2006年4月保険適用（保険償還価格；80万9千円）
・認定施設数増加　当初3施設
＋7施設（順次トレーニング実施）
・待機患者の存在
・社会的認知度の高まり

➡今期より販売本格化



アンプラッツァーは、先天的に左右の心房を隔てる壁（心房中隔）に穴が空いている疾患（心房中隔欠損症）を治療するための器具です。この器具の特長は、従来の治療は外科手術を行う必要があったことに比べ、カテーテルにより治療を行うことが可能となるため、患者様の負担が減少され、また、大きな手術跡も残りません。
今年4月に保険適用となっており、また、国内に同様の競合商品がないことから、今後、治療を行うことが可能な施設数の増加に伴い、普及していくことが見込まれます。

ニューディバイスの投入

■CRT-D（除細動機能付両心室ペースメーカ）

・「コンタック・リニューアル4」承認申請中

・保険償還価格　419万円（他社商品にて7月適用予定）

※CRT-D・・・心不全治療のために左右両心室をペーシングし、
心室細動等の不整脈を検知した場合除細動を行う。

・潜在市場

ICD・・・約2,800症例/2005年推計

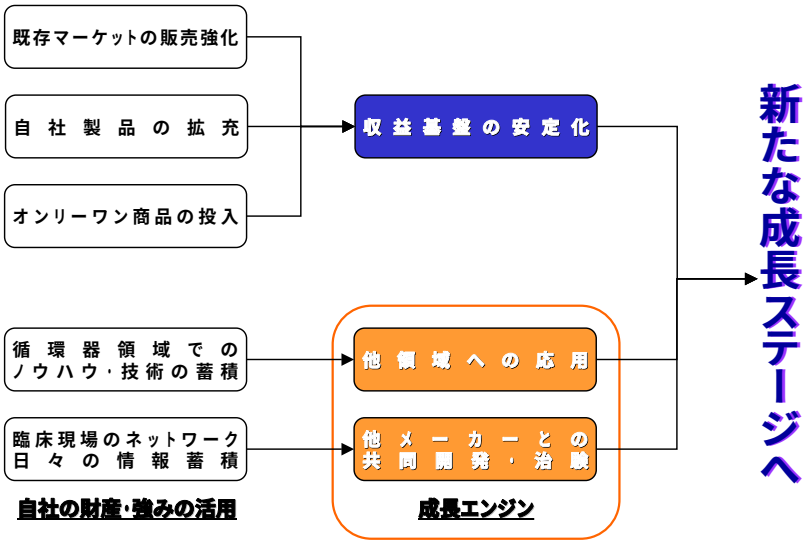
CRT-P※・・・約1,000症例/2005年推計

※除細動機能を持たない両心室ペースメーカ



心不全患者の死因には、心室細動などによる突然死が少なくないとされており、除細動機能を持ったCRT-Dを植え込むことが有効であると考えられております。このため、CRT-Dの潜在市場として、除細動機能を持たないCRT-Pの市場や、ICD市場の一部が想定されます。

成長ステージへむけて



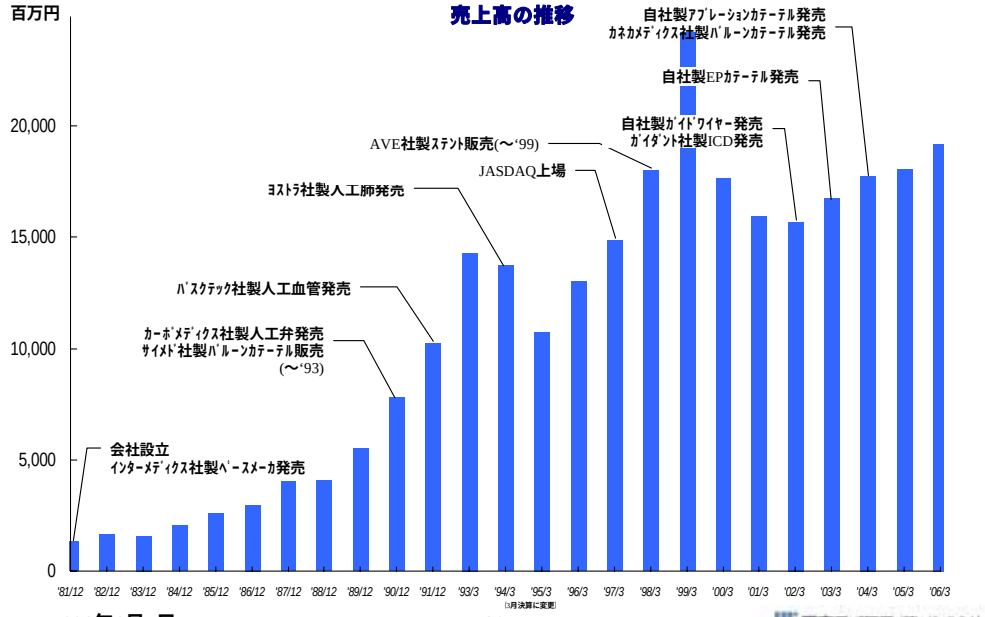
収益基盤の安定化を図るとともに、自社の財産や強みを活用し、中長期的な成長を目指してまいります。

(参 考) 会 社 概 要

2006年6月1日

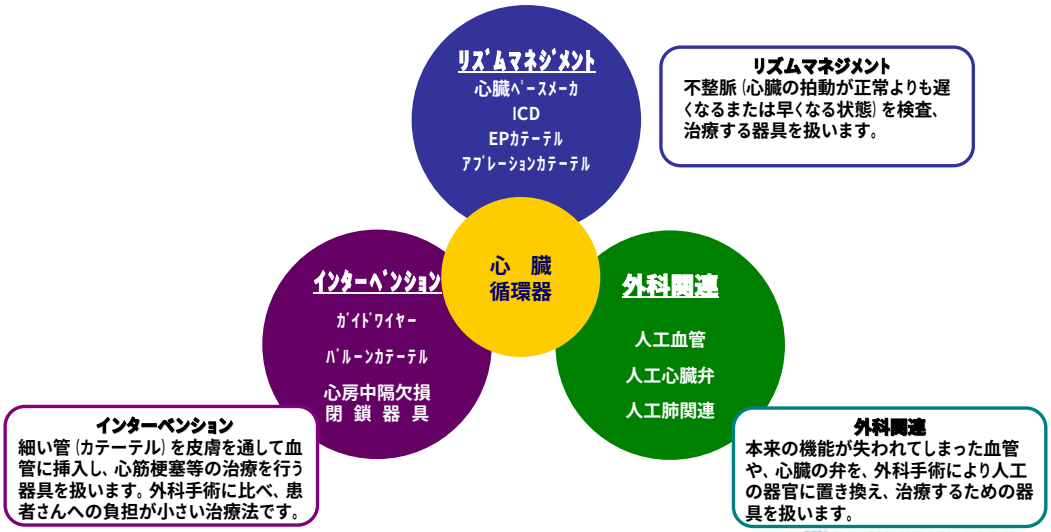
JLL 日本ライフライン株式会社

沿革


百万円
売上高の推移
20,000
15,000
10,000
5,000
0
会社設立
ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｸｽ社製ﾍﾟｰｽﾒｰｶ発売
ｶｰﾎﾞﾒﾃﾞｨｸｽ社製人工弁発売
ｻｲﾒﾄﾞ社製ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ販売
(～'93)
ﾊﾞｽｸﾃｯｸ社製人工血管発売
ﾖｽﾄﾗ社製人工肺発売
JASDAQ上場
AVE社製ｽﾃﾝﾄ販売(～'99)
自社製ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ発売
ｶﾞｲﾀﾞﾝﾄ社製ICD発売
自社製EPｶﾃｰﾃﾙ発売
自社製ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ発売
ｶﾈｶﾒﾃﾞｨｸｽ社製ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ発売
'81/12 '82/12 '83/12 '84/12 '85/12 '86/12 '87/12 '88/12 '89/12 '90/12 '91/12 '93/3 '94/3 '95/3 '96/3 '97/3 '98/3 '99/3 '00/3 '01/3 '02/3 '03/3 '04/3 '05/3 '06/3
[3月決算に変更]

事業領域

当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療器具を扱っており、事業領域はリズムマネジメント、インターベンション、外科関連の3つに大別されます。

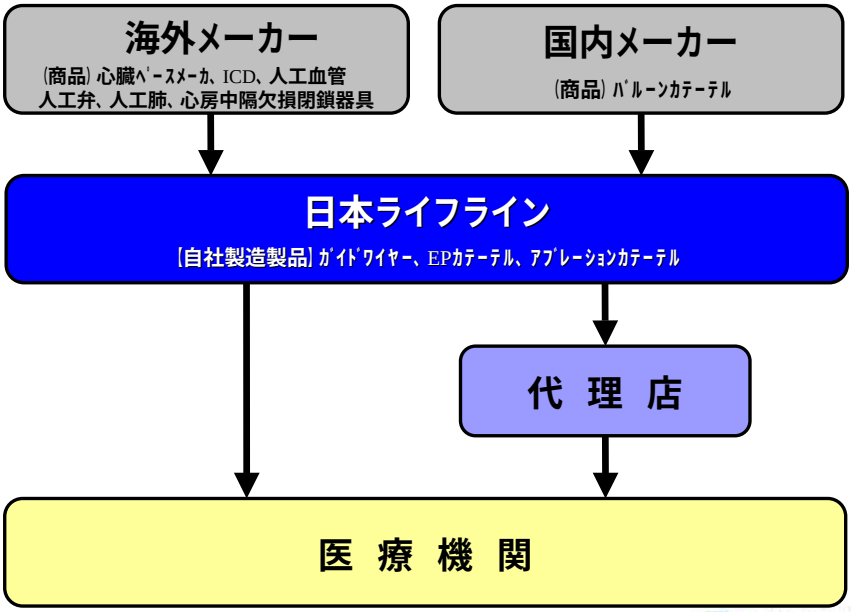


リズムマネジメント
不整脈（心臓の拍動が正常よりも遅くなるまたは早くなる状態）を検査、治療する器具を扱います。

インターベンション
細い管（カテーテル）を皮膚を通して血管に挿入し、心筋梗塞等の治療を行う器具を扱います。外科手術に比べ、患者さんへの負担が小さい治療法です。

外科関連
本来の機能が失われてしまった血管や、心臓の弁を、外科手術により人工の器官に置き換え、治療するための器具を扱います。

商品の流通経路


海外メーカー
(商品) 心臓ﾍﾟｰｽﾒｰｶ、ICD、人工血管
人工弁、人工肺、心房中隔欠損閉鎖器具
国内メーカー
(商品) ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ
日本ライフライン
【自社製造製品】ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ、EPｶﾃｰﾃﾙ、ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ
代 理 店
医 療 機 関

商品紹介ーリズムマネジメント



心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈（徐脈）に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

心臓ペースメーカ

心臓の拍動が異常に早まる不整脈（頻脈）のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。



ICD（植込み型除細動器）

アブレーションカテーテル



頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流により焼き切り治療します。

EP（電気生理用）カテーテル



不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。

商品紹介ーインターベンション



バルーンカテーテル

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管（冠動脈）が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船（バルーン）を拡張させ、再度血流を確保します。

バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。



先端イメージ図

ガイドワイヤー



心房中隔欠損閉鎖器具

先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患（心房中隔欠損症）をカテーテルを用いて治療します。

従来の治療方法である外科手術に比べ、患者さんの身体的負担も小さく、大きな手術跡も残りません。

商品紹介ー外科関連



人工心臓弁

心臓内の血液の逆流を防ぎ、正しい流れを保つために機能している心臓弁が、十分に開かなくなったり、完全に閉じなくなった場合に、人工心臓弁に置き換え、本来の機能を回復させます。



人工血管

動脈瘤（動脈の壁に瘤ができ、場合によっては破裂、出血する）などで痛んだ血管を切り取って人工血管に置き換えたり、バイパスとして使用します。

人工弁付血管



人工心臓弁と人工血管が一体となっており、大動脈弁と弁につながる動脈を同時に交換する場合に用いられます。

人工肺



心臓の外科手術を行う場合、一時的に心臓を停止させ、人工心肺装置により血液を循環させますが、その際血液中の二酸化炭素を除去し、酸素を供給する肺の働きをします。

■ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、日本ライフラインの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品に関し、治験に関する事項、薬事法の承認に係る事項、および発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合せ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部　山田
電話　03-3590-1618
URL　http://www.jll.co.jp

... for patient comfort.